刺激を与え続けた結果，色素沈着をきたすようになったもので，成人に好発する．鎖骨部や頸部，肋骨部，脊柱部などの骨上部に，網状ないしびまん性の褐色の色素沈着を認める（**図16.12**）．瘙痒などの自覚症状はまったくない．

病因・病理所見

機械的刺激やそれによる軽度の炎症によってメラノソームが真皮に滴下し，真皮上層でメラノファージが増加する（組織学的色素失調）．一部の症例ではアミロイド沈着をみる．

治療

ナイロンタオルなどの刺激の原因となるものの使用を中止すれば，色調は徐々に正常に戻る．

5. 遺伝性対側性色素異常症（遠山）
dyschromatosis symmetrica hereditaria（Toyama）

定義・病因・症状

四肢末端（とくに手背や足背）において両側性に，3～8 mmまでの褐色斑と脱色素斑が多発し，それらが融合して網目状の外観を呈する（**図16.13**）．一般に末梢に向かうにつれて症状が激しくなる．色素斑は表面平滑で，陥凹などを認めない．顔面に雀卵斑様の色素斑を生じやすい．多くの症例では6歳までに発症し，常染色体優性遺伝形式で家族内発症する．*ADAR1*遺伝子の変異による．加齢とともに拡大，顕在化するが，成人期には停止する．アジア人に好発する．

診断・鑑別診断

特徴的な皮膚所見および家族内発症の有無で臨床診断が可能である．鑑別すべき類似疾患に網状肢端色素沈着症（次頁MEMO参照）がある．本症と同様に四肢末端に網目状の色素沈着をきたし，常染色体優性遺伝をとる疾患であるが，色素斑に皮膚陥凹を伴う点，脱色素斑を認めない点において鑑別される．

治療

カバーメイクアップを使用．色素斑部位の削皮術を行う場合もある．

図16.12　摩擦黒皮症（friction melanosis）
体幹とくに背部にみられる網状，びまん性の褐色色素斑．個疹は直径数mmの黒色調丘疹で，病理組織学的にはアミロイドの沈着をみることがある．

図16.13　遺伝性対側性色素異常症（dyschromatosis symmetrica hereditaria）
顔面には雀卵斑が，手背には3～8 mmまでの褐色色素斑が多発．それらが融合して網目状の外観を呈する．脱色素斑も混在する．